



# Citrus Ribbon PROJECT

下関看護リハビリテーション学校は、「シトラスリボンプロジェクト」に賛同しております。

シトラスリボンプロジェクトとは？ 以下[シトラスリボンプロジェクト from エヒメ Facebook](#) ページより引用

当たり前と思っていた「ふだんの暮らし」を揺さぶっている COVID19。

今や、どこにいても何をしても、いつだってだれだって感染のリスクはゼロではありません。

感染拡大を防ぐためには、さらなる「行動変容」が必要になると同時に、だれもが、少しでも心のびやかに暮らせるようなまちなりのあり方が、今こそ問われているのかもしれない。

ウイルス感染拡大阻止は、もちろん大事です。経済対策も大事です。

でももうひとつ、忘れてはならないことは、たとえウイルスに感染してしまっても、地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるということの大切さです。

「ただいま」「おかえり」。お互いにそんなふう言いあえる、受け止める空気であってこそ、安心・安全が守られるまちなのだと思います。

わたしたちの暮らしを守るために日々奮闘しておられる方々への感謝も込めて、「ただいま」「おかえり」って言いあえるひとの輪を、愛媛から、ここ山口へ。

シトラスリボンプロジェクトに取り組む理由。 以下[シトラスリボンプロジェクト from エヒメ Facebook](#) ページより引用

ウイルス感染拡大の阻止につながります。検査が必要と思われる方々が、躊躇なく安心して受けていただくことで、いち早く対策を打つことができます。また、感染が確認された方々への差別や偏見が広がることによる弊害を防げます。感染者が出た・出ないということ自体より、「その後」に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると、私たちは考えます。「ただいま」「おかえり」って言いあえるまちはきっと、だれにとっても暮らしやすいまちであるはず。"コロナ禍"の「その後」も視野に入れて、暮らしやすい地域をめざしませんか？

山口でも輪を拡げていこう！ 当学校がシトラスリボンプロジェクトに取り組む理由。

コロナウイルスへの感染が確認された方々や、私たちの暮らしを支えてくれる方々がコロナ禍で差別偏見されている現実があります。シトラスリボンプロジェクトに賛同し、感染された方々、私たちの暮らしを支えてくれる医療従事者の方々が、差別偏見なく暮らしの中で「ただいま」「おかえり」と言いあえる街となるように、やさしい人の輪を拡げていきます。

この活動は愛媛県でチーム「ちょびっと19+」様により発足した運動です

ちょびっと19+ 共同代表 甲斐 朋香 氏(松山大学法学部准教授) 前田 眞 氏(愛媛大学社会連携推進機構教授)